

資料編 用語一覧

あ行

アクセス道路 (P. 26、34、38)

ある目的となる地点へ到達するための道路のこと。

移動空間 (P. 4)

道路における自動車、自転車、歩行者が移動出来る機能を有する空間のこと。

オープンカフェ (P. 9)

道路に対して、テラスのように開放的な構造にしたカフェやレストランのこと。

か行

緊急輸送路 (P. 7、27、31、33、34、35、38、40)

大規模な地震等の災害が発生した場合に、救命活動や物資輸送等の緊急輸送を円滑に行うために、県や市町が指定した地域防災計画に定められた道路のこと。

熊本地震 (P. 7)

平成 28 年 (2016 年) 4 月 14 日に発生した、熊本県熊本地方を震源とする大地震のこと。マグニチュード 6.5 で、最大震度 7 を観測した。

公共投資 (P. 1)

道路・港湾・上下水道・公営住宅・病院・学校など産業や生活の基盤となる社会資本の整備のために行う投資のこと。

高次都市機能 (P. 20)

都市機能*のうち日常生活の圏域を越えた広範な地域のたくさんの人々を対象にした、質の高いサービスを提供する機能のこと。

交通結節点 (P. 9、31、33、34、35、38、40)

バスやタクシーが乗り入れる駅や、空港、港、インターチェンジなど複数あるいは異種の交通手段の接続が行われる場所のこと。

高度経済成長期 (P. 1、14)

日本経済が飛躍的に成長を遂げた昭和 29 年 (1954 年) 12 月から昭和 48 年 (1973 年) 11 月までの約 19 年間のこと。

国勢調査 (P. 4、5、48)

統計法に基づき、総務省統計局が主体となって行う、全国民参加の人口や世帯に関する調査のこと。

骨格道路 (P. 20)

将来都市像*を実現するため、都市活動を支える基幹的な道路のこと。

コミュニティ空間 (P. 9、11)

地域の住民が快適で豊かな暮らしを営むことができる生活空間のこと。

コンパクトなまちづくり (P. 2、20、21、25)

環境との共生を図りながら、多様な産業をバランスよく発展させていくとともに、人がどこに住むようになるのか、どこに住みたいと思うのかを考え、人口が減少しても「コミュニティがくずれない、環境が守られる」都市づくりのこと。

さ行

市街地の無秩序な拡大 (P. 5)

都市の急激な発展で、市街地が無計画に郊外に広がっていく現象のこと。スプロール化ともいう。

静岡県第4次地震被害想定 (P. 7)

東日本大震災*の教訓や新たな知見等を踏まえ、平成25年(2013年)に静岡県が公表した県内の地震被害想定のこと。駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生する2つのレベルの地震・津波を想定している。

持続可能なまちづくり (P. 2、20、22、48)

将来にわたり、持続的に発展可能なまちを形成するため、低炭素、資源循環、高齢化対策、コミュニティ形成によりまちを維持していく考え方のこと。

自転車ネットワーク路線 (P. 38)

沼津市自転車ネットワーク計画で位置付けられた、安全で快適な自転車利用環境の整備を推進する路線のこと。

社会保障関係費 (P. 18)

医療や年金、介護、生活保護など、社会保障に係る経費のこと。

少子高齢化 (P. 1、4、18、20、28、30)

出生率が低下する一方で、平均寿命が伸びることにより、人口全体に占める子供の割合が低下し、高齢者の割合が高まること。

将来都市像 (P. 1、2、4、18、20、22、23、25、28、30、33、40、41、47、48)

まちづくり全体の目標として、目指すまちの将来の姿のこと。

人口集中地区（D I D）（P. 5）

国勢調査*で設定されている、人口密度 40 人/ha 以上の地区が互いに隣接し、その合計人口が 5,000 人以上となる地域のこと。Densely Inhabited District を略して DID とも呼ばれる。

人口集中地区（D I D）人口

人口集中地区内の人口のこと。国勢調査*により、都道府県及び市町村別に集計されている。

た行

第 2 次沼津市都市計画マスタープラン（P. 2、20、22、23、24、28、48、49）

最上位計画である「第 4 次沼津市総合計画*」に掲げる将来都市像*を、都市整備の分野から実現していくための計画のこと。第 4 次沼津市総合計画*が目指す「人と環境を大切にする県東部広域拠点都市・沼津」を実現していくために、「持続可能なまちづくり*」を基本としつつ、これまでの都市構造を時代の流れにあわせた「4 つの視点のまちづくり」を位置付けている。

第 4 次沼津市総合計画（P. 2、20、21、28、48、49）

沼津市の行政運営の総合的な指針となる、本市の最上位計画のこと。将来都市像*「人と環境を大切にする県東部広域拠点都市・沼津」を掲げ、その実現のためのまちづくりの方針等を位置付けている。

地域拠点（P. 23、24、37）

第 2 次沼津市都市計画マスタープラン*で位置付けられた、鉄道駅周辺やバス路線が充実し、人口集積が多い地域のこと。

中心市街地（P. 22、24、25）

公共交通のターミナルである沼津駅から徒歩で無理なく移動でき、都市機能*が集積している（商店街が連続しているなど）、沼津駅を中心とした概ね半径 1 k m の範囲のこと。

道路維持費（維持管理費）（P. 18）

舗装補修、橋梁・トンネル補修、耐震補強など維持・補修に係る費用のこと。

都市機能（P. 20、22、24、34、37、46、48、49）

文化、教育、保健・医療・福祉、商業、工業などの都市が持つサービスを提供する機能のこと。

都市基盤整備（P. 20）

市民生活の安全性、利便性、効率性などの向上を図るため、道路、公園・緑地、上下水道、河川などの都市施設*を整備すること。

都市拠点 (P. 20、22、24、37)

第2次沼津市都市計画マスタープラン*で位置付けられた、市の中心であり県東部地域の広域拠点となる沼津駅周辺の地区のこと。都市的居住圏*の中心として、質の高い都市機能*の集積を図る地区として位置付けている。

都市計画審議会 (P. 13)

都市計画法*に基づき、都市計画に関する事項を調査審議するため設置された附属機関の総称であり、都道府県が決定する都市計画に関する事項を審議する都道府県都市計画審議会と、市町村が決定する都市計画に関する事項を審議する市町村都市計画審議会の2種類がある。

都市計画法 (P. 1、13、19、49、50)

都市の健全な発展と秩序ある整備を図ることを目的とした、都市計画に関する法律のこと。

都市施設 (P. 1、4、11、48)

道路、公園、下水道など都市の骨格を形成し、円滑な都市活動を確保し、良好な都市環境を保持するための施設の総称。

都市的居住圏 (P. 21、49)

第4次沼津市総合計画*で位置付けられた、都市機能*が集積し交通利便性が高いなど、生活基盤が整い都市的サービスを楽しむことができる便利な居住空間を創出していくエリアのこと。

トリップ数 (P. 6)

人がある目的をもって、ある地点からある地点へと移動する単位のこと。1回の移動でいくつかの交通手段を乗り換えても1トリップと数える。

な行

南海トラフ巨大地震 (P. 7、27)

駿河湾から東海地方、紀伊半島、四国にかけての南方沖約100kmの海底をほぼ東西に走る長さ700kmの細長い溝「南海トラフ」を震源域として発生が想定されるマグニチュード9クラスの巨大地震のこと。

賑わい機能 (P. 24)

地域内外の人々が集まり、交流し、まちの賑わいを生み出す機能のこと。

沼津市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン (P. 4)

本市の人口の現状を分析し、現在及び将来にわたる人口について、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を掲示するもの。

沼津市立地適正化計画 (P. 2)

都市再生特別措置法に基づき、居住や医療・福祉・商業、公共交通等の様々な都市機能*を誘導し、関連する施設の立地の適正化を図り、一定の区域に誘導することで、第2次沼津市都市計画マスタープラン*で示した都市の将来像の実現を図る計画のこと。

は行

(東駿河湾都市圏) パーソントリップ調査 (P. 6)

人の動き（パーソントリップ）に着目して実施されるアンケート調査のこと。「どのような人が」「いつ」「何の目的で」「どこから」「どこへ」「どのような交通手段で」動いたかについて調査し、1日のすべての動きを捉えるもの。東駿河湾都市圏としては、沼津市・三島市・御殿場市・裾野市・伊豆市・伊豆の国市・函南町・清水町・長泉町・小山町の6市4町が対象範囲となる。

パブリックコメント (P. 3)

行政機関が行おうとしている政策について、市民から意見を募り、それを政策の意思決定に反映させる制度のこと。

東駿河湾広域都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針 (P. 2、20)

都市計画法*に基づき静岡県が定めるもので、東駿河湾広域都市計画区域（沼津市、三島市、長泉町、清水町の2市2町の区域）における、今後の都市計画上の見通しや目標を明確にして、個別の都市計画決定の根拠とする計画のこと。

東日本大震災 (P. 7、20、47)

平成23年（2011年）3月11日に発生した、東北地方太平洋沖地震によってもたらされた災害のこと。マグニチュード9.0で、最大震度7を観測した。平成28年（2016年）12月9日時点で、震災による死者・行方不明者は18,449人、建築物の全壊・半壊は合わせて400,827戸が公式に確認されている。

ファルマバレープロジェクト (P. 26)

「健康長寿世界一」を目指し、静岡県東部地域を中心に取り組まれている富士山麓先端健康産業集積プロジェクトのこと。

ボトルネック (P. 8、34)

幅員減少や車線減少により、渋滞を起こす箇所のこと。

ま行

ミッシングリンク (P. 34)

道路網において、未整備区間の存在により、路線が分断されている箇所のこと。

緑のネットワーク (P. 8)

公園・緑地の整備により、緑を面的かつ線的に関連付け、うるおいのある環境づくりを図ること。